

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2018年9月号>

138号 2018.09.03 配信

日中はまだ暑さのなごりを感じますが、朝夕は涼しい風が抜けていきます。

それに誘われるように虫の音が心地よく聞こえてきます。

■同窓会だより

◆ワーキングミニセミナー「一枚の自分史」

<開催日>9月8日(土) 13:30~15:30

<場 所>本部館3階 中会議室

<内 容>講師、河出岩夫氏(明治19年創業の老舗出版社「河出書房」の3代目。一般社団法人自分史活用推進協議会の理事。河出氏が提唱している「一枚の自分史」についてお話を伺い、ワークショップであなたの「一枚の自分史づくり」を体験します。

<会 費>500円(「一枚の自分史」フレーム代、茶話会代)

<持ち物>あなたが仕事(家事、ボランティアも含みます)をしているときの写真を1枚以上。昔の職場、同僚との写真。職場旅行や懇親会の写真。「仕事」を連想できる写真。

<参加申し込み>同窓会事務局:TEL 03-3421-7713 E-mail dousoukai@swu.ac.jp

■学園だより

◆女性事業継承者育成プログラム

“跡取り娘”人材育成コース 受講生募集のお知らせ

昭和女子大学ダイバーシティ推進機構のキャリアカレッジの新設コース募集のお知らせです。当コースは、“跡取り娘”人材育成コースと銘打った、近年増加している女性事業継承(承継)者を育成するためのプログラムです。

チームによる女性経営者訪問など、自ら学ぶ「アクションラーニング」と、経営者や講師による講義から学ぶ「セッション」を組み合わせたプログラム。最終回には、研究発表と修了式を行います。事業改革に挑戦したい方、志の高い女性経営者とのネットワークを築きたい方にも、お勧めです!

<コース概略>

参加対象:経営に参画又は、その予定がある女性

2018年10月27日~2019年3月9日 月1回(土曜日 13~17時)全6回

光葉同窓会特別受講料:5万円(税・懇親会費込)

定員:25名

<お申込方法>下記フォームから詳細をご確認の上、お申込みください。

<https://goo.gl/forms/Y44Nt01cfDqk7z0A3>

お申込締切:9月30日

主催:昭和女子大学ダイバーシティ推進機構

TEL 03-3411-9483 URL <https://swu.ac.jp/diversity/>

◆キャリア支援センターから「2018年度秋期 社会人メンター募集のお知らせ」
学生が社会人から、仕事や実社会での経験を伺うことで、将来働く自分の姿を具体的に考える機会を大学が提供する制度です。皆様、ぜひ後輩のためにご応募ください。

募集期間：2018年9月3日（月）～ 9月21日（金）13時

応募要件：原則3年以上の社会人経験のある女性

※詳細は募集要項をご参照ください

応募方法：募集期間中、大学ホームページ (<http://univ.swu.ac.jp/>) の

「お知らせ／公開講座イベント」欄にて、応募用サイトのURLをご案内いたします。

選考方法：書類審査のうえ、面談させていただきます。

※特に2019年度は、管理栄養士・建築士でご活躍の方が不足しています。

■ 広げよう光の葉

西野 真理さん

1984年 文家政学部生活美学科卒

私は昭和で10年間過ごしました。大学では生活美学科(当時)で博物館学を学び、社会に出て30年ほどが過ぎました。今まで外資系を含む幾つかの会社を経験し、現在はICT業界で国内外向けの広報宣伝全般をみています。

そしてこれはおそらく日本の企業の事務方の職種では非常に幸運なことなのですが、社会人になった時からほぼ一貫して同じ職種(広報宣伝)でいることができています。

皆様ご存知のように日本の「会社」には人事異動があります。昨日まで営業をしていた人が一週間後には知的財産部で仕事、というようなことは日常茶飯事です。そんな中で、私は専門外の仕事を殆どしないできたのは、自分が「学芸員」「イベント業務管理者」等の資格を持っていてPRやイベントが専門なのだ、と折に触れて声をあげて、自分の特性をしつこく自分で広めて「この人はこれが専門なのだ」という印象を周りに植えつけてきた結果、既成事実のようになったのではないかと思うのです。

しかしこの状況は考え方によっては「自分の可能性を狭める」ともいえます。

たまたま私の仕事は国内外に及んでいるので、この領域でめいっぱい世界を広げればいいと割り切ることができましたので、自分の領域を決め、まわりに印象を植え付ける作戦に出たという次第です。また、専門領域がある、と言える状態だと、例えば社命で他社への出向や派遣になったり転職をしたりしても「こういう仕事を頼める人だ」とすぐにわかって貰えます。そうすると、案外とすぐに居場所ができます。また、会社や業種は違っても、仕事自体の「お作法」やコツややり方は共通するものが多いので、組織にも馴染みやすいと実感しています。

このような仕事の専門領域を「芸」と例えて私は「会社員の「芸」も「身を助ける」と言っています。これから就職を考える皆様、こういった目線就職先の検討を試してみるのも面白いのではないのでしょうか。【End】